

## 奥様はメラミンコリ

春は巢立ちの季節です。ここ川津の地でも多くの子どもたちが未来に向かって羽ばたいて行きました。卒業式に参列し立派に成長した子どもたちを目の当たりにすると、心が洗われるようで、涙腺はあっけなく崩壊するのですが、その話はまたいずれ。

子ども達が新しいステージに向けて飛び立っていく一方、リタイアして家庭に戻ってくる者もいます。いわゆる定年退職を迎えた男どもです。彼らは退職が近づくと「これからは第2の人生を楽しむぞ」とか「苦勞をかけた妻と豪華客船で世界一周」などと、バラ色の引退生活を夢見ます。

しかし、いび退職すると、妻との旅行も国内の温泉旅行でお茶を濁し、新たに始めた趣味も長続きせず、朝から晩まで家でぶらぶら過ごすことになります。たまに奥様が外出しようものなら、「どこへ行くんだ」「何時に帰ってくるんだ」としつこく詰問する始末です。

さあ、こうなると奥様のストレスは大変なものです。これま

で夫は朝出て、夜遅く帰ってくるので、昼間は奥様にとって天国だったのです。習い事に行ったり、親しい友達とランチをしたりで自由を満喫していたのですが、夫が終日家で牛のようにゴロゴロしては、そうもいきません。しかもこれまで朝夕だけ作ってきた食事を、昼食も準備せねばなりません。「昼食なんて自分一人なら、残り物で適当に済ませるのに……あぁムカつく！」

もちろん男どもの方も、ダラダラした暮らしを続けることは本意ではありません。奥様の冷たい視線も気になるので、何か仕事を探そうという気になります。そして運よく新しい仕事を見つけた夫は、「私を雇ってくるところが見つかった」と胸を張って奥様に報告します。すると奥様は微笑みを浮かべながらとどめの一撃を。

**「あなた、まさかお昼を食べに帰ってきたりしないでしょうね」**

本文中、終日「ゴロゴロ」している男を牛にたとえました。この表現は牛に対し大変失礼であり、モウ省することも心からお詫び申し上げます。